

報告日 令和7年9月21日

報告回次 2日目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	新地アーバンデザインセンター(UDCしんち)			代表者名	清家 剛
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	なし	連絡先電話番号	090-6189-0449
担当者役職	なし	担当者氏名	土屋依子	連絡先E-mail	
住所	979-2709 福島県新地町駅前1丁目5番地 A 棟 1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	新地町	連絡先部署	企画政策課		
担当者氏名	寺島一宏	連絡先電話番号	0244-62-2111	連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	人をつなぐ新地町の地域情報番組づくり		
概要	まちづくり活動の一環として、町民、町内児童・生徒・大学生、町外の大学生が一体となって、新地町の震災の記憶や現在の姿を伝え、郷土への想いを共有する地域情報番組を制作する。番組制作手法を互いに学び合い、交流を深めながら制作に取り組めるよう「住民ディレクターワークショップ」による番組づくりの指導・助言を支援いただきたい。				
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成）ICT活用広報 その他				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1.

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	140K	令和7年9月14日	支援・助言&講演	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年7月27日	支援・助言&フォローアップ(実地)	9時00分	17時30分	60
				活動時間（分）	450

2-2.

派遣場所	会場名	新地アーバンデザインセンター	最寄駅	常磐線新地駅
	所在地	福島県相馬郡新地町駅前1丁目5番地 A 棟 1	最寄駅からの交通手段	徒歩

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	高橋 明子
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	事前の打ち合わせにも何度も応じてくださったほか、2回実施した番組制作のワークショップについて、対象者の年齢や経験に合わせて1回目と2回目と工夫して実施してくださった。2日目は取材体験ワークショップを実施したあと、震災経験のトークの収録を行った。小学生の参加者にも丁寧に指導くださった。60〜70歳代の参加者もあり、1日目よりもさらに幅広い年齢層での活動となったが、終始和やかな雰囲気を実施することができた。
アドバイザーへの要望事項	フォローアップとして、3回目の実施までに数回、番組編集の指導・助言をお願いしたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者

属性	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	17人
	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	0	11	0	6

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	東日本大震災後の復興は着実に歩みを進めてきたが、町の産業の中核は農業と火力発電事業であり、将来の脱炭素化、少子高齢化を見据え、地域住民のつながりを一層強固にすると同時に、関係人口の創出につながるような活動を展開していく必要がある。具体的には新地住民の主体的な活動者のほか、町外からの訪問者や連携者を増やすため、新地町の魅力やUDCの活動について情報発信を強化する。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	UDCしんちの活動として、町民が自ら取材し、新地町の魅力、復興の今を伝える番組制作に取り組むことで、1）町民のUDCしんちの存在や活動内容の認知度向上、2）参加住民（個人）及びUDCしんち組織としての情報発信力の向上、3）新地町住民、大学生への防災教育（被災経験や復興への思いを記録し、語り継ぐ活動）、4）首都圏の大学生と交流によるUDCしんちの活動の活性化、を目指す。

アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	住民ディレクター方式による番組づくり全般にかかる指導。事前の準備としては、ワークショップの企画・運営の準備、番組企画の相談等。当日は、ワークショップ（番組作り体験講座）では番組作りの基礎知識、取材・撮影の仕方について教えていただいた。ワークショップ終了後は、大学生によるフォローアップの取材に同行して助言いただいたほか、次のイベント（番組上映会の予定）の打ち合わせを行った。	
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	まだ具体的な成果には結びついていないが、UDCしんちにおける地域情報番組づくりの活動を始動することができた。ワークショップをきっかけとして、番組制作・情報発信に関心と意欲のある住民の参加が得られたので、活動を継続することで情報発信の強化につなげていく。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 番組制作の基礎を学び、コンテンツとなる情報を収集・記録した段階である。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	1回目の報告書にも記載したが、2日間連続での参加者は首都圏の大学生と住民の方は2名に限られており、参加者が1回のみでの体験講座で、高橋アドバイザーの助言や指導なしに、自分たちだけで実践していくのにはハードルが高いと感じた。引き続き、参加者とメールやオンラインでの意見交換をしながら、参加大学生の協力を得て、編集作業を進めていく。また、制作した番組の活用方法について、UDCしんちの活動に参加する他の住民も交えて検討していきたい。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 ワークショップや番組制作活動のため、アンケートは実施していない。ワークショップの終了時に参加者の意見交換を行った。「初めての取材体験がおもしろかった」という感想のほか「震災経験を生で聞けてよかった、自分も語り継いでいきたい」という感想であった。	
4－3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する 3回目は12/21に参加者や関係者を招いて完成した番組の上映会を開催する（予定）。
4－4. 事業の最終的な目指す姿	・令和7年度末までに、新地町の取組、魅力、震災の記憶に関し、住民参加型で映像記録（アーカイブ）を取りまとめる。 ・成果物として制作した映像記録は、令和8年度以降の町民が語り継ぐ防災教育およびUDCしんちの活動の広報への活用する。映像記録を用いた教育活動・情報発信の継続は、町民へのUDCしんちの理解、応援、参加を促し、ひいてはまちづくり活動の担い手の育成につなげる。 ・UDCしんちを拠点として生まれている様々な活動が持続し、停滞している地域活動の活性化やコミュニティの再生に寄与することで長期的に、住民のQOLの向上につながるものと考えられる。	

5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	☐ 掲載可
------	---------------------------

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good practices/past_year_all_houkoku/

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

